

III 教室および部門史

 教 養 教 育

人文科学教室

人文科学教室は1955年(昭30)4月、進学課程設置とともに開設され、助教授吉田忠勝が初代の責任者として、また唯一の教室構成員として就任した。吉田は1970年(昭45)2月に教授に昇格し、1985年3月定年退職した。その後任として教授湯浅慎一(昭51,独ケルン大哲学部卒,LL.D.,PH.D.)が同年7月に就任し、現在に至る。1973年以後の開設講義は引継ぎ哲学、倫理学、心理学、国語国文学、芸術学であった。心理学、国語国文学、芸術学の講義は以前と同様、非常勤講師が担当したが、その担当者は諸般の事情により、以下のようにかなり頻繁に交代した。

心 理 学 1971年(昭46) 蓮尾千万人 — 1974年(昭49) 伊吹山太郎
 1975年(昭50) 秋田 宗平 — 1981年(昭56) 島 久洋
 1982年(昭57) 秋田 宗平 — 1989年(平元) 中瀬 惇
 1992年(平4) 清水佐保子

国語国文学 1973年(昭48) 本田 義憲 — 1984年(昭59) 西端 幸雄
 1986年(昭61) 鈴木 博一 — 1989年(平元) 野々村勝英
 (1993年をもって国語国文学を一時休講にして宗教学を開講する)

宗 教 学 1994年(平6) 嵩 満也

芸 術 学 1973年(昭48) 金田 民夫 — 1982年(昭57) 中川 勝正
 1986年(昭61) 吉岡健二郎 — 1988年(昭63) 加藤 哲弘
 1990年(平2) 松原 哲哉 — 1995年(平7) 小林 昌広

学生の自主的研究に期待し、カリキュラムにゆとりを持たせるため、1990年(平成2)より人文科学の修得すべき最少単位を12単位(3科目)から10単位(2科目)に減らし、1996年(平成8)からは単位の数え方を変更し、8単位2科目とするとともに、哲学は必修となった。1997年(平成9)からは更に6単位以上と読みかえることとなった。

吉田の主な研究業績にはK.ヤスパース実存哲学に関する論文「実存的理性—ヤスパース哲学研究」I,II,III,1970~75年、「カント『判断力批判』の研究」I,II,III,1978~80年、著書には『倫理学要論』(単著)1967年(昭41),『善と美の間』(単著)昭和堂1990年(平成2)がある。湯浅の専攻が現象学、実存哲学であるため、哲学と倫理学の講義もそのような性格をもっている。湯浅はその他、2,3年おきに20世紀の哲学的人間論を講義している。1987年度からは2年生のための選択科目としてゼミナール形式の哲学特論「生命・医の倫理」を開講してい

る。ここで宗教現象に対する学生の関心と知識が如何に欠けているかを実感し、上記のように宗教学を開講する。しかしこの開講には教授会には若干の反対があった。

湯浅の本教室着任の1985年（昭60）以来の第一の研究領域はフッサール、ハイデッガー哲学の研究等にもとづく日常的、非日常的世界の現象学的解釈であり、主な業績に著書『身体の現象学』（単著）世界書院、225頁、1986年（昭和61）と研究論文7点、学会発表10点（国際学会7点）ある。第2の研究領域は秘密結社フリーメンソンリーであり、業績に著書『フリーメンソンリー、その思想、人物、歴史』（単著）中央公論社、231頁、1990年（平成2）と研究論文3点ある。第3の研究領域は米国右翼の政治社会思想であり、これには4冊の英語からの翻訳書がある。第4の研究領域は生命倫理、医の倫理、環境論であり、業績には論文4点ある。

社会科学教室

鯖田豊之

在職期間 1958年4月～1989年3月

専門 中世フランス史

- 在職中の主要業績
- ・封建支配の成立と村落共同体 …未来社（1962）
 - ・日本を見なおす …講談社（1964）
 - ・肉食の思想 …中央公論社（1966）
 - ・戦争と人間の風土 …新潮社（1967）
 - ・世界の歴史 第9巻 …河出書房新社（1969）
 - ・生と死の思想 …朝日新聞社（1971）
 - ・世界のなかの日本 …研究社（1971）
 - ・文明の条件 …講談社（1972）
 - ・文明と風土 …日本経済新聞社（1974）
 - ・生きる権利・死ぬ権利 …新潮社（1976）
 - ・生活文化の発想 …雄山閣（1977）
 - ・肉食文化と米食文化 …講談社（1979）
 - ・水道の文化 …新潮社（1979）
 - ・都市はいかにつくられたか …朝日新聞社（1988）
 - ・翻訳 プラーニッツ 中世都市成立論…未来社（1959）
 - ・翻訳 クルトジンガー 三種の神器 …形象社（1975）

植 木 哲

在 職 期 間 1989年4月～1993年3月

専 門 医事法

在職中の主要業績

- ・ 消費者信用法と保護制度のあり方…消費者信用情報研究会(1989)
- ・ クレジット法の理論と実際 …信山社 (1990)
- ・ 施設の欠陥と製造物責任 …法律文化社 (1990)
- ・ 医事紛争予防学、医事法律 …日経メディカル社(1990)
- ・ 医事法の現代的諸相 …信山社 (1991)
- ・ 災害と法、営造物責任の研究 …一粒社 (1991)
- ・ 世界の医事法 …信山社 (1992)

新 村 拓

在 職 期 間 1993年4月～

専 門 日本医療社会史

在職中の主要業績

- ・ 出産と生殖観の歴史 …法政大学出版局 (1996)
- ・ 医療化社会の文化誌 …法政大学出版局 (1998)

第一外国語教室（英語教室）25年の変遷

（1972～ ）

人 事

（教授）

1975(昭和50)年、服部英二教授の定年退官にともない、後任として増田英夫(洛北高等学校教諭)が教授として着任する。増田英夫教授は1992(平成4)年に定年退官を迎え、後任に須加葉子(鹿屋体育大学助教授)が教授として着任する。1995(平成7)年、進学課程の一部改組により、英語教室とドイツ語教室が、名称をそれぞれ第一外国語教室と第二外国語教室に変更することとなる。この改組にともない須加葉子教授は第二外国語教室の教授となり、第一外国語教室には、大武博(福井県立大学助教授)が教授として就任し、現在に至る。

（非常勤講師）

日本人講師：

1972(昭和47)年、所勇光華女子大学教授を前年度から引き続き迎えるが、当該年度限りとなる。1972(昭和47)年より1975(昭和50)年まで、岡田幸一京都女子大学教授を迎える。1973(昭和

48)年から1975(昭和50)年まで、尾形敏彦京都大学教授を迎える。1976(昭和51)年から1994(平成6)年まで多田稔京都工芸繊維大学教授(1985年より大谷大学教授)を迎える。1976(昭和51)年から1980(昭和55)年まで、米本義孝立命館大学助教授を迎える。1981(昭和56)年、小田幸信同志社女子大学教授を迎えるが、当該年度限りとなる。1996(平成8)年より、川村珠巨大阪府立工業高等専門学校講師を迎え現在に至る。

外国人講師：

1972(昭和47)年より1988(昭和63)年まで、William T. Furbush 京都工芸繊維大学外国人教師(アメリカ人)を迎える。1989(平成元)年より1990(平成2)年まで、Fiona Helen Shaw Roberts(イギリス人)を迎える。1991(平成3)年より、Piers Nigel Vigers(イギリス人)を迎え現在に至る。1996(平成8)年のカリキュラム改定により、必修科目として「英会話」が開講されることとなり、外国人講師を従来より一人増員して、二人委嘱することになる。1996(平成8)年から1997(平成9)年前期まで、Dana Sasaki(カナダ人)を迎える。1997(平成9)年後期には、David Engstrom(アメリカ人)を迎える。1998(平成10)年より、David Jones(イギリス人)を迎え、外国人非常勤講師二人体制が整い現在に至る。

カリキュラム及び授業内容

(カリキュラム)

1972(昭和47)年以降1996(平成8)年にカリキュラムが大幅に変更されるまで、英語教室では、英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語Ⅲ・英語Ⅳ・英語Ⅴ・英語Ⅵ・英語特論(ゼミ)等を開講し、学生はその中から4科目8単位を修得することが求められた。1996(平成8)年のカリキュラム改定では、教養課程(旧進学課程)の修業年限が従来の2年間から1年半に短縮され、第一外国語教室が開講する科目では次のような大きな変化が生じた。

- ① 開講科目は、英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語Ⅲ・英語Ⅳ・英会話・英語特論(ゼミ)とする。
- ② 英語Ⅰ・英語Ⅱは1年生を対象とし、週1回(通年)の開講とする。英語Ⅲ・英語Ⅳは2年生を対象とし、週2回(半年)の開講とする。英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語Ⅲ・英語Ⅳは、いずれも3単位科目とする。
- ③ 「英会話」は1年生を対象とし、3単位の必修科目とする。会話授業という特性を考慮し、1クラスのサイズを25名程度に抑える。
- ④ 英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語Ⅲ・英語Ⅳ(各3単位)より、3科目9単位以上を修得すること。
- ⑤ 英語特論(ゼミ)は、2年生を対象にした科目で、週1回(半年)開講し、1.5単位科目とする。この単位は、第三外国語科目の単位に振り替えることができる。

(授教内容)

教材は、広く人文科学、自然科学、社会科学の分野に素材を求め、英語力の向上に資する題

材を積極的に利用している。奥行きが深くしかも幅の広い教養を涵養することを狙うだけでなく、時事英語の読解訓練(多読、直読直解)や、放送英語(Voice of America, CNN, BBC)等の聴解訓練にも力点を置いている。また、English for a Specific Purposeの観点から、医学や生命科学に関連した記事をInternet等を介して即時入手し今日的な話題を取り上げて教材として利用することで、学生の英語に対する興味、関心を高めることに意を用いている。

研 究

服部英二教授(1975年退官)は、英国ヴィクトリア朝小説の研究を専門分野とし、本学教養課程の研究紀要 *Studia Humana* 誌に、創刊(1967年)以来精力的に William Thackeray 等の作家論を投稿発表している。増田英夫教授(1992年退官)は、アメリカ文学を専門とし、Henry James や Nathaniel Hawthorne の作品論等を日本アメリカ文学会誌『アメリカ文学研究』や *Studia Humana* 誌等に発表している。大武博教授は、英語教育・応用言語学を研究対象分野とし、特にコーパス言語学と英語教育の接点、言語修得理論と英語教育の接点から、英語教育の現代化の方策を探究している。英語教育、教育学関連の学会誌等で論文を発表している。

(文責 大武博)

(人事年表)

	教授	日本人非常勤講師		外国人非常勤講師
1972年	服部英二教授	岡田幸一	所勇 (光華女子大学教授)	William Furbush*1
1973		(京都女子大学教授)	尾形敏彦 (京都大学教授)	(京都工芸繊維大学外国人教師)
1974	↓			
1975	増田英夫教授			
1976	(9月16日付)	多田稔	米本義孝	
1977		(京都工芸繊維大学教授)	(立命館大学助教授)	
1978				
1979				
1980				
1981			小田幸信	
1982			(同志社女子大学教授)	
1983				
1984				
1985		多田稔		
1986		(大谷大学教授)		
1987				
1988				
1989				Fiona Helen Shaw Roberts*2
1990				
1991				Piers Nigel Vigers*3
1992	須加葉子教授			
1993				
1994	↓			
1995	大武博教授			
1996	(10月1日付)	川村珠巨		Dana Sasaki**
1997		(大阪府立工業高等専門学校講師)		Dana Sasaki/David Engstrom*5
1998年	↓	↓		David Jones**6

(注) *1アメリカ人 *2イギリス人 *3イギリス人 **カナダ人 *5アメリカ人 *6イギリス人
1997年度は、Dana Sasaki は前期のみ、David Engstrom は後期のみ担当した。

ドイツ語教室

進学過程が1955年（昭和30年）に発足して以来、ドイツ語教室の教授を努められた原俊彦先生の後を受け、1971年（昭和46年）に山本尤教授が神戸大学より着任され、1994年（平成6年）まで、ドイツ語の教鞭をとられた。この間、山本尤教授は1985年（昭和60年）から1987年（昭和62年）の間、進学部長を併任されたほか、後記の著書、論文のほか、多くの訳書がある。

山本教授の後任としては大武博教授が着任されたが、同教授は第1外国語教室として英語を担当しておられる。なお従来の英語教室には、須加葉子教授が1992年（平成4年）に着任された。1994年（平成6年）6月には教室名を第二外国語教室と変更し、フランス語および英語の教育にあたって居られる。

（文責 森本武利）

山本 尤教授主要業績

著書、論文

- 1) 「状況の中の文学—ナチ時代の〈国内亡命〉という奇妙な概念—」
青土社「現代思想」1974 Vol. 2-7 S.41-51 昭和48年7月
- 2) 「絶対芸術とジャンル—絶対詩と絶対演劇の距離をめぐって—」
「希土」第4号 S.78-90 昭和49年12月
- 3) 「Mythische Bilder in Hölderlins Stromgedichten」(独文)
京都府立医科大学「STUDIA HUMANA」No. 9 S.11-38 昭和49年12月
- 4) 「表現の危機とエロスの発作—ベンにおける言葉のモンタージュの特質—」
日本独文学会「ドイツ文学」第54号 S.11-21 昭和50年5月
- 5) 「E・ユンガー試論—クペーンとの交友をもととするひとつの解釈—」
「希土」第7号 S.80-96 昭和52年12月
- 6) 『医学ドイツ語入門』
南江堂 S.1-675 昭和53年3月
- 7) 「二度目のベン・ルネッサンス—西ドイツ詩壇の社会的背景をめぐる断章—」
「希土」第9号 S.17-37 昭和54年12月
- 8) 「Gottfried Benn in der Expressionismusdebatte」(独文)
日本独文学会「ドイツ文学」第64号 S.64-75 昭和55年5月
- 9) 「日本におけるベン研究文献」(共)
日本独文学会「ドイツ文学」第65号 S.152-167 昭和55年10月
- 10) 「ゴットフリート・ベン—自己の内的本質を言葉で引き裂く人ニーチェ—」
渡辺二郎／西尾幹二編『ニーチェ物語』有斐閣 S.322-324 昭和55年12月
- 11) 「国内亡命と国外亡命—二人の亡命者の対話—」
「匙」第6号 S.200-226 昭和57年9月
- 12) 「ベンの新しい全集をめぐって」
日本独文学会「ドイツ文学」第71号 S.159-162 昭和58年10月

- 13) 「Korrelat 取捨の問題」
日本独文学会ドイツ語教育部会 会報 第26号 S.15-19 昭和59年10月
- 14) 『ナチズムと大学—国家権力と学問の自由—』
中央公論社 中公新書 775 S.1-192 昭和60年8月
- 15) 「帝国の瓦解とワイマール時代」 辻 星／三島憲一編『ドイツの言語文化』
放送大学教育振興会 S.136-144 昭和61年3月
- 16) 「三〇年代とナチズム」 辻 星／三島憲一編『ドイツの言語文化』
放送大学教育振興会 S.145-154 昭和61年3月
- 17) 「Gottfried Benn in Japan」(独文)
In: Über Gottfried Benn. Kritische Stimmen 1957-1986. Hrg.v.Bruno Hillebrand
Fischer Taschenbuch Verlag S.393-403 昭和62年11月
- 18) 「現代ドイツ文学に見る家父長制家族像」
日本ドイツ学会ニュース Nr. 5 S.12-17 昭和63年3月
- 19) 「世紀末における社会的モデルネと美的モデルネ—ヴァーグナー、ホーフマンスタール、ダ
ヌンツィオー—」 講座「20世紀の芸術」第2巻 『芸術と社会』
岩波書店 S.131-177 平成元年6月
- 20) 「躓きの石としてのニーチェ—ゴットフリート・ベンの場合—」
日本独文学会「ドイツ文学」第85号 S.64-74 平成2年10月
- 21) 「ナチス蠶気の焚書儀式」 「歴史読本ワールド」第1巻4号 特集ヒトラーの時代
人物往来社 S.114-121 平成2年11月
- 22) 「現代における対話の可能性—1945年以降のドラマ—」
深見 茂編『ドイツ文学を学ぶ人のために』 世界思想社 S.63-77 平成3年4月
- 23) 「ハイデガー／ナチズム／デリダ」 シンポジウム報告
「思想」(岩波書店) 1991年8月号 S.8-15 平成3年8月
- 24) 「80年代のドイツ文学について」 「希土」第20号 S.85-106 平成5年6月
- 25) 「M・ハイデガーにおける学問と政治」 河上倫逸編 『文明の規範』
未来社 S.389-410 平成6年3月
- 26) 「表現主義と近代」 岩波講座「現代思想」第14巻 『近代／反近代』
岩波書店 S.19-52 平成6年3月

編纂教科書

- 1) 『I.Langner: Ich lade Sie ein nach Kyoto』 文林書院 昭和48年9月
- 2) 『医歯系学生のためのドイツ文法』 南江堂 昭和49年4月
- 3) 『ドイツ文法提要』 郁文堂 昭和51年4月
- 4) 『H.Goertz u.a.: Die berühmten Ärzte』 芸林書房 昭和51年9月
- 5) 『A.Grosser: Die Gegenwart der Vergangenheit』 三修社 昭和58年2月
- 6) 『中級のドイツ文法と文章論』 同学社 昭和60年3月
- 7) 『ドイツ語 IV — ドイツ語の魅力を探って —』(放送大学印刷教材)
放送大学教育振興会 平成6年3月

数学教室

1984年3月に教授桑垣煥が定年退職し、その後任として同年4月に八木克巳（大阪大学教養部助教授）が教授に着任し、現在に至っている。教室は教授1人のため教育においては、非常勤講師として、1984年までは滝沢精二（京大教授）、笠原皓司（京大教授）、1984年の1年間は伊達悦郎（京大教授）、また統計学の講義には1984年から1992年まで浅野弘明（本学公衆衛生学講師）、その後1998年まで三枝利文（龍谷大学名誉教授）に、現在は麻田佳明（龍谷大学非常勤講師）に担当していただいている。

教育科目および内容

1974年～1989年

- 数学1（第1学年通年週1回）（必修）：線形代数学
- 数学2（第1学年通年週1回）（必修）：微積分学（1変数，2変数）
- 応用解析学1（第2学年前期週1回）（必修）
- 応用解析学2（第2学年半年週1回）（1988年よりゼミ形式）
- 数理統計学1，2（第2学年前期，後期週1回）

1990年～1995年

単位削減のため第1学年の数学の必修単位数を半減し、第2学年の応用解析学を選択科目とした。

- 数学1，2（第1学年前期，後期週1回）（必修）
- 応用解析学（第2学年後期週1回）
- 数学特論（第2学年半年週1回）ゼミ形式
- 統計学1，2（第2学年前期，後期週1回）

1996年～

教養教育の期間が1年半となり、統計学は半年になった。

- 数学（第1学年通年週1回）（必修）
- 応用解析学（第2学年1学期週1回）
- 数学特論（第2学年1学期週1回）ゼミ形式
- 統計学（第2学年1学期週1回）

応用解析学：微分方程式（Lotka-Volterra）

（年によっては、Turing machine, Fourier 解析など）

数学特論（ゼミ）：毎年、次のようなテーマで4つのゼミを開講した。

1. 実数論
2. 確率論
3. ベクトル解析 (Maxwell の方程式を目標に)
4. Fourier 解析 (X 線の CT の原理を目標に)

1996年以後はゼミは第2学年1学期のみとなり、上記のテーマから2つを開講している。また、1996年からは、大学院における基礎教育関連科目としての統計学を担当している。

研究

八木は1984年の着任以来1994年まで微分幾何学（論文：Affine manifolds の分野（志磨裕彦（山口大学）との共著1編）、Super manifolds の関係（3編））を主な研究領域とし、1994年以後は統計学の理論と応用に取り組んでいる。本学の紀要 *Studia Humana* に微分幾何学関係2編と統計学関係3編がある。また、1996年には京都府医学振興会の学外研究への援助で1ヶ月間 Oklahoma University において Biostatistics の研究に従事した。

（文責 八木克巳）

物理学教室

教室員の変遷

1978年（昭和53年）3月、藤喜好文教授が退官し、同4月に大阪大学理学部物理学教室・素粒子論研究室の斎藤武助教授が教授として着任した。こうして物理学教室は斎藤教授、小川芳男講師、沖史也講師となった。斎藤教授は、高エネルギー素粒子理論、特に重力を含めた力の統一理論である超弦理論を中心テーマとして研究を進めた。また斎藤教授は「花園音楽の夕べ」を学生とともに企画し、自作のピアノ曲を披露したり、バイオリン演奏を披露するなどという一面も示された。1993年（平成5年）3月に小川講師が定年退官し、同4月に梁時宗講師が着任した。平成7年3月に斎藤武助教授が定年退官し、同4月に滋賀医科大学分子神経生物学研究センター分子神経化学部門の花井一光助教授が教授として着任した。花井教授はそれまでの素粒子論の物理学教室を生物物理学など、柔らかな物理学の教室にするべく方向を変えた。また花井教授は前任校でコンピュータネットワークの構築に関与した経験を生かして、この面にも力を注いでいる。

後に述べる本格的なコンピュータ実習は沖講師が中心になったが、機材の関係で、100人の学生を、4つのグループに分けて行うという大変な実習になった。このため沖講師は物理学学生実習の面倒がとても見られないため、1986年（昭和61年）から、物理学実習のみ更に非常勤講

師のお手伝いをお願いすることが認められ、梁時宗非常勤講師が誕生し、1993年からは溝口俊弥非常勤講師、翌年からは小倉和一非常勤講師に変わった。

コンピュータ実習の黎明期

当初、物理学実習の一部として、マイクロコンピュータ、パーソナルコンピュータが取り入れられていた。1979年（昭和54年）にはパーソナルコンピュータが4台になったのを機会に、総合題目としてコンピュータ実習を組み入れた。言語は BASIC であったが珍しさもあって興味を持つものも多く、課外活動も行なわれるようになり、トランプなどのゲームなどのプログラムをつくる学生まで現われた。

その後コンピュータ教育に対する全学的な強い要望と進学課程の諸先生方の協力により、1986年（昭和61年）にはより広い人文研究室をコンピュータ室に改造し、またこの年より3年次計画で教育実習重点設備費を当てることによって当時最新のパーソナルコンピュータが整備された。9600 bps の専用線で京都大学計算機センターにも接続し、本格的なコンピュータ実習が開始された。内容としてはコンピュータの仕組み、BASIC Programming(統計計算)、京大大型計算機センターを利用したデータ処理や情報検索、ワープロ、表計算などであった。

インターネット時代のコンピュータ実習

90年代にはいと、徐々に多くの大学がインターネットで接続されるようになってきた。この流れを受けて京都府立医科大学でも、麻酔学教室田中義文教授が中心となって学内 LAN の整備がはかられた。そして有園直樹学生部長の判断による学生課の援助で1995年（平成8年）2月には花園と広小路の間も 64 kbps の専用回線で接続され、あわせて花園学舎内の LAN も整備された。この経緯から学生部長はインターネットを学生の教育に利用することを強く主張され、コンピュータ室のコンピュータをネットワークに接続するための経費も準備された。また第1外国語教室の大武博教授もインターネットを外国語教育に活用することを強く主張された。こうして同4月にはパーソナルコンピュータ Macintosh 10台と富士通 FMV 3台が導入された。このうちの3台の FMV には free unix である Linux が導入され、花園の LAN の中心的なサーバマシン (name/DHCP, mail, WWW/cache server) として活用され、Macintosh はエンドユーザ端末として利用された。花園の mail server では、毎年全員の新生入生に電子メールアドレスを用意していった、6年がかりで全学生の電子メールのアカウントを用意する計画が進行している。希望する学生には WWW server に自分の個人ページを掲載できるシステムも用意された。今の所は個人的な自己紹介や、自分の属しているクラブ、団体の紹介が主な内容であるが、これが今後、学生の目を通した本学の紹介に成長してくれるたらと願っている。

電子メールやホームページはネットワーク社会で中心的な情報交換の手段になることが予想

され、医師といえども、今後ますますネットワーク社会に慣れ親しむ必要がある。花園でのコンピュータ教育は、これを強く意識したものに変わられつつある。少なからぬ学生がネットワークの維持管理に関与できるような知識・技術を身につけるというのも重要な目標である。コンピュータ関係の専任の職員も専任教官もない本学で新入生全員が、入学後の早い段階で電子メールを利用できるようになるのは注目すべき成果である。

インターネットを利用した教育

インターネットが導入されてからは、コンピュータはコンピュータ実習で利用されるだけでなく、外国語の授業や他の特論でも利用されるようになってきている。また授業時間以外にも、多くの学生が電子メールや WWW を利用するためにコンピュータ室を利用するようになっていく。少なからぬ学生にとって、ネットワークライフは学生生活の一部になっている。今後は、このような傾向はますます顕著になるものと考えられ、更にコンピュータ室の拡充が望まれる。このようにインターネットの導入は、コンピュータ教育というせまい枠組みだけでなく、大学全体の環境にも大きな影響を与えつつある。

化学教室

1973年(昭48)4月時点の教室員は、三谷一雄教授(1955年(昭30)4月～)、朝倉祐治助手(1960年(昭35)4月～)、大久保成史郎助手(1968年(昭43)4月～)の3名であったが、大久保助手が1973年(昭48)12月退職し、1974年(昭49)2月藤井建が助手として着任した。なお1975年(昭50)藤井助手は京都大学時代の研究(反応速度の圧力効果)により理学博士の学位を取得した。

1974年(昭49)4月、『教授または助教授1名、助手2名』と定められていた化学教室の定員が、『2名の助手定員の内1名を助教授または講師とすることができる。』と改訂され、朝倉助手が講師に昇進した。

1979年(昭54)3月末、三谷教授が定年退職し、名誉教授になった。4月には後任として、東京大学理学部から森山祥彦教授(専門は天然物有機化学)が着任した。

1993年(平5)4月、藤井建助手が学内講師に昇進した。

三谷教授時代後期の教室の研究テーマは、主として、白金触媒によるオゾンの熱分解反応の速度、および、その際の白金表面の被毒作用の研究であり、以前に行った白金表面と原子状酸素の反応の研究と比較することであった。

1979年(昭54)4月から森山教授時代になり、従来の研究を打ち切り、森山研究室としての新しいテーマで出発することになった。しかし、当時教室に高価な機器類は皆無であったし、

通常の化学研究に不可欠な分析機器類 (GC, HPLC, IR, NMR 等) がなく、有機化学系の研究用器材や図書類さえ皆無の状態であった。

当初、東京大学から核磁気共鳴装置 (日立製 R-24 B 型) を借用したり、東大が廃棄したガスクロマトグラフを貰ったり、第一生理学教室、明治鍼灸大学等約10教室との共同利用のために、超電導型核磁気共鳴装置を当教室に設置し、当教室の保守の下で共同研究を行った。その後、中央研究室の装置等を利用したり、さらに、教室費に学生実習設備整備費を合わせ、機器分析用機器等 (核磁気共鳴, 赤外分光, 高速液体クロマト, ガスクロマト, パソコン) を徐々に整備し、学生実習ばかりでなく、研究用にも活用した。

森山研究室の主な研究テーマは、テルペンおよびアルカロイドに関するもので、シオナン誘導体の四環トリテルペンへの骨格変換反応や、*Calendula officinalis* から得られるマイナーな成分の構造決定である。他に *Gossypium* 種から得られる成分の構造決定の研究、カクレミノの葉、コルク、白樺樹皮等から溶媒可溶性の成分を抽出し、それらを用いた変換反応の研究、第一病理学教室と協同でキノホルム鉄錯体の研究も試みた。

1992年 (平4) 11月、森山教授はフランスの天然物有機化学研究所に出張し、約1カ月余り充実した設備と協同研究者に恵まれた環境の下で、研究に当たった。

パソコン関係では、PC98-XA のための画像処理、市販ソフトの立体的分子構造プログラム、核磁気共鳴データの解析ソフト等の改良を試み、共に、学生の教育に活用した。

他には、原子状酸素の関与する反応の研究、単分子膜中での反応機構の研究も行った。

教育面では、1979年 (昭54)、三谷教授から森山教授になり、方針が変わり、実習は、マクロ法で行っていた無機定性分析をセミマイクロ法にした。その後、各種機器等が徐々に整備充実されたので、それ等を用いる実習を取り入れた。それに伴い無機合成、重量分析、容量分析が廃止され、ついに、無機定性分析も廃止し、有機化学および機器分析実習のみとした。講義も、物理化学系を減らし、有機化学系を質的量的に充実した。

1988年 (昭63) から、化学特論がゼミナール形式で開講されたのに伴い、核磁気共鳴 (森山)、クロマトグラフィ (朝倉)、化学平衡と反応速度 (藤井) 等のゼミを毎年3~4クラス行っている。

1991年 (平3) に、朝倉講師は高校での化学を未習得の学生に補習授業を行った。ほかに、1976年 (昭51) の看護学院時代から今日の医療技術短大まで化学講義を当教室が分担して受け持っている。また、森山教授は1996年 (平8) から大学院で医学関連基礎科目の講義を担当している。

その他、教室運営面で、三谷教授時代に増して森山教授時代には、実習室等への消火器の整備充実、戸棚、ボンベ等の壁への固定等の防災対策、実習中保護眼鏡の着用等安全対策、重金属廃液の削減等公害対策に配慮してきた。さらに、教室員に水質関係第一種公害防止管理者と甲種危険物取扱者の免許を取得させた。

(文責 朝倉 祐治)

- 1975年（昭和50年） 4月 教授三谷一雄が進学部長に補せられた。
- 1977年（昭和52年） 3月 教授三谷一雄が進学部長を解かれた。
- 1979年（昭和54年） 3月 教授三谷一雄が定年退職し、名誉教授になった。
- 1979年（昭和54年） 4月 東京大学理学部森山祥彦助手（東京大学理学部1964年（昭39年）卒、同大学院1968年（昭和43年）修了。理博）が教授（進学課程化学）に任ぜらる。
- 1989年（平成元年） 5月 名誉教授三谷一雄が勲3等旭日中綬章を受章。
- 1993年（平成5年） 4月 教授森山祥彦が進学部長に補せられた。
- 1995年（平成7年） 6月 名誉教授三谷一雄（79歳）が死去。
- 1996年（平成8年） 4月 名称が進学部長から教養教育部長となり、教授森山祥彦が引き続き教養教育部長に補された。
- 1997年（平成9年） 3月 教授森山祥彦が教養教育部長を解かれた。

参考資料

三谷一雄教授略歴 1939年（昭和14年）京都帝国大学理学部卒（無機化学専攻）。1948年（昭和23年）理学博士の学位を取得。京都大学理学部助教授を経て1955年（昭和30年）4月、本学教授（進学課程化学担当）となる。1975年（昭和50年）4月～1977年（昭和52年）3月、進学部長に任ぜらる。1979年（昭和54年）3月定年退職、名誉教授となる。1989年（平成元年）5月勲3等旭日中綬章を受章。1995年（平成7年）6月逝去。

森山祥彦教授略歴 1964年（昭和39年）東京大学理学部卒（天然物有機化学専攻）。同大学院を1969年（昭和44年）終了。理学博士の学位を取得。東京大学理学部助手を経て1979年（昭和54年）4月、本学教授（進学課程化学担当）となる。1993年（平成5年）4月～1996年（平成8年）3月、進学部長、続いて同年4月～1997年（平成9年）3月、教養教育部長を歴任。

生物学教室

高本薫は、京都でもっとも早く電子顕微鏡技術を導入し、昭和63（1988）年定年退官するまで両生類の卵形成を電子顕微鏡で精細に観察することを続けた。毎週2回河原町本校の中研電顕室に出かけて電顕観察に励んだ。春や秋には教室員とともに鞍馬山の北、花背峠などに出かけて、研究材料のイモリやカエルを採集し、自然に親しむなど、当時を知る教室員のなつかしい思い出である。教室の内外では研究・教育用の生き物が何種も飼育され、カエルやコオロギの鳴き声が聞こえたもので、今から思えばのどかな光景であった。生物学実習では、人体解剖の予行としてカエルの解剖を9回も行っていった。実習は夜にまで至ることもあったが、フレッシュマン相手の楽しいものであった。

高木由臣は、昭和44（1969）年から50（1975）年まで在籍した（現奈良女子大学理学部教授）。単細胞生物のゾウリムシをモデルに今も性や加齢の細胞生理学的研究を続けている。道之前直は昭和45（1970）年から49年まで在籍し、高本教授のもとでツチガエルやイモリの卵形成を

電子顕微鏡で研究した（現甲南大学理学部助教授）。

影山哲男と松野亨は、昭和50（1975）年以來在籍している。影山は、個々の細胞のかたちと運動の解析をもとに、形態形成運動についておもにメダカ卵の初期胚発生を材料に発生細胞学的研究を続けている。細胞シートが変形する形態形成運動中には緊密に結合した上皮の中でも個々の細胞は配列替えをすることなどを示した。近年は受精前後も扱って発生系における細胞骨格の役割について研究を進めている。また、メダカの卵形成のごく初期の濾胞で見つかったアクチン線維のパターンから、卵膜表面にある付着毛のパターンの形成機序を明らかにしたことを契機に、魚卵の卵殻表面の付着毛などの構造・模様のパターン形成の問題を研究テーマとしている。松野は、生物のかたちはどのように出来てくるか、に興味を持っており、ショウジョウバエの気管系、ヒドラやニワトリの神経系の形成過程の研究を行ってきた。現在は葉脈の形成過程を研究テーマにし、葉脈はでたために走行しているのではなく、一定の規則性をもって走行していることがはっきりしてきた。その規則性が生じるメカニズムは何か、その規則性が意味することは何かを現在調べている。

仲村春和は、高本の後任として昭和63（1988）年に広島大学医学部解剖学教室から着任し、約6年の在任中に、ニワトリ視神経の標的選択の研究を視蓋の前後極性形成に焦点を当てて実験を行った。主な研究結果として、視蓋の前後極性は孵卵2日目にはまだ決まっていないことを、視蓋原基の回転移植実験や（松野亨が担当）、投射パターンの解析によって（第2病理学教室の大学院生一條裕之が担当、昭和63年秋から、平成4年まで当教室で研究）明らかにした。また一連の脳胞の異所的移植実験により、間脳胞の発生運命の転換や視蓋の前後極性の決定にはen遺伝子が重要な役割を果たしていることなどが明らかにされた（広島大学医学部解剖学教室から出張していた板崎伸栄が担当、平成2年4月から平成6年3月まで大学院および学振特別研究員）。仲村は平成6年2月東北大学へ転出した。

荒木正介は、仲村の後任として平成6（1994）年5月に生命誌研究館から着任した。細胞生物学の基本的な実験設備が整い、神経発生に関する研究を進めた。主なテーマは、網膜と松果体の発生と神経細胞の分化を決める因子に関するもので、細胞の分化能が環境の因子によってどのように調節されているのかを胚の組織移植実験や組織培養によって研究した。とくに、発生運命の決定と間葉組織との相互作用の意味を細胞成長因子によって明らかにしようとした。また、鳥の概日リズム発振器である松果体の機能分化とその要因を細胞培養系で研究した。

佐野護は、平成10年荒木の後任として、愛知県、発達障害研究所より着任した。主として、神経細胞の培養系を用いて、神経成長因子の作用機構などを研究対象として、形態学、生化学など多様な手法のアプローチを進めている。

なお、平成8年度に新カリキュラムが導入され、生物学では講義科目の組み換えと実習時間の短縮にともなう実習項目の見直しをおこなった。生物科学（1年通年）では、遺伝・細胞・

発生の3つのテーマを基礎から講義し、現代生命科学（2年生前半期）では、遺伝子調節、発生のメカニズム、神経生物学、免疫生物、進化生物学など、さまざまな生命現象を最近の話題もとりにいれながら多角的に扱っている。この他に、少人数の学生を対象にしたゼミ形式の生物学特論がおこなわれている。

1988年（昭和63年）	3月	高本薫教授定年退職。名誉教授。
1988年（昭和63年）	9月	仲村春和教授就任（広島大学医学部より）。
1989年（平成1年）	7月	影山哲男助教授昇任（本学講師より）。
1994年（平成6年）	2月	仲村春和教授転任（東北大学加齢医学研究所へ）。
1994年（平成6年）	5月	荒木正介教授就任（生命誌研究館より）。
1998年（平成10年）	4月	荒木正介教授転任（奈良女子大学理学部へ）。
1998年（平成10年）	11月	佐野護教授就任（愛知県発達障害研究所より）。